

様式(細則 5-2)

令和7年12月5日

浜田市議会議長 澁谷 幹 雄 様

議員名 芦谷 英 夫

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1、視 察 名 介護予防・日常生活支援総合事業市民啓発研修会

2、視察事項 介護予防・日常生活支援総合事業の取組、識者の提言など

3、視察の目的（市政との関連など）

同事業による地域包括ケアシステムの現状について調査研究

4、日 時 令和7年11月26日（水）14時30分～16時30分

5、経 費 バス代 5,840円（浜田～広島往復）

駐車料 400円

6、視察のポイント・議員活動や市政への反映など 地域包括ケアシステムの構築は喫緊の課題であり、地域の取り組み、識者、関係者の考えなどを学び、浜田市の地域包括ケアシステムのあり方について評価検証

7、視察内容 別紙のとおり



介護予防・日常生活支援総合事業市民啓発研修会

令和7年12月5日

1 日 時 令和7年11月26日(水) 14時30分～16時30分

2 会 場 広島市(広島市総合福祉センター)

3 概 要

- ① 少子高齢化が進行し、若者世代の県外転出、地方の過疎化など地域社会の持続が困難となっており、市民が住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けるため「お互い様」の精神に基づき、地域社会全体で支え合う持続可能な地域共生の実現が求められ、この課題に対し関係者がそれぞれ、取り組みや考えを述べた。
- ② (公民館長) 市民が参加するよう文化・教育・文芸・音楽・芸能・健康・軽運動・スポーツなど幅広い事業・講座・教室など行い、地域包括ケアの一部を担っている。
- ③ (社会福祉協議会課長) ボランティア活動は「やりがい」「生きがい」「学びあい」につながることを啓発し、市民参加、地域活動に取り組んでおり、生活支援コーディネーターなどの業務を担っている。
- ④ (広島修道大学山川肖美教授) ⇒広島市は自治会、町内会加入率は50%程度であり地域のつながりが弱い、「つどう」交民館「まなぶ」高民館「むすぶ」光民館、公民館は幸民館であるべきと提言、自治会加入と市民参加、公民館活動の重要性を強調。
- ⑤ (広島市高齢福祉課長) 介護予防・日常生活支援総合事業は、地域の実情に応じ住民などの多様な主体が参画し、多様なサービスの充実を図ることにより、地域の支え合いの体制づくりを推進し、要支援者などに対する効果的で効率的な支援などを行う。
- ⑥ 「社会とのつながり」を失うことが、フレイルの始めの入口、そして「生活範囲」・「こころ」・「お口」・「栄養」・「からだ」と連鎖し「フレイル・ドミノ」になる、地域で社会参加できる機会を増やすことが、介護予防になり高齢者も含めた多世代が「社会の支え手」となることで地域包括ケアの形ができる。

4 所 感

- ① 広島市も浜田市と同様に公民館、社会福祉協議会などで地域福祉活動を展開しており、浜田市は食事の配達、買い物支援、移動サービス、有償ヘルパー、有償ボランティア、ごみの戸別収集などを実施しているが、利用の状況、サービス体制の地域による偏在などの検証が必要である。
- ② 浜田市は認知症に対して地域で支える、支える集いをつくるとして、チームオレンジ2か所、認知症カフェ3か所で取り組んでいるが、チームオレンジのか所数は増加せず、認知症カフェのか所数が減っているように、地域包括ケアとしての地域での支えの体制や集いの取り組みが弱い。
- ③ 高齢者クラブは平成26年70クラブ会員2,660人、令和2年52クラブ会員1,705人、令和7年36クラブ会員1,198人と10年前に比べ、クラブ数、会員数ともほぼ半減しており、上記から地域包括ケアの体制や機能は不十分である。
- ④ 高齢者クラブ数、会員数の減少に対して、まちづくり推進委員会で高齢者の地域活動の参加を進める「高齢者部会」的な組織のあるまちづくり推進委員会は少数であり、地域づくりに地域包括ケアの機能を取り込む必要がある。これには協働のまちづくりと高齢者福祉の所管課の連携体制が必要である。

—以上—